2026年度全学統一入学試験問題

国　　語【看護学部】

（2月3日）

開始時刻　　午後1時00分
終了時刻　　午後2時00分

※　数学の問題は、本冊子の左開きのページにあります。

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 落丁，乱丁，印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 国語か数学のどちらか1科目を選択し，該当する解答用紙を切り離して解答してください。2科目とも解答した場合は，すべて無効となります。

   国　　語　1～18ページ

4. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので，監督員の指示に従って，それぞれ正しく記入し，マークしてください。

   ①　受験番号欄

   受験番号を記入し，さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は，採点できないことがあります。

   ②　氏名欄

   氏名とフリガナを記入してください。

5. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば，［10］と表示のある問いに対してⓒと解答する場合は，次の(例)のように解答番号10の解答欄のⓒにマークしてください。

   (例)

10	ⓐ	ⓑ	ⓒ	ⓓ	ⓔ

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
7. 試験終了後，問題冊子は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、**問一**〜**八**に答えなさい。

すべてのものごとに対して、いつでもどこでも意欲的だという人はまずいないだろう。仮に何事に対しても積極的な人がいたとしても、その日の体調や、周囲の環境が当人のやる気を左右しているはずだ。つまり、われわれのモチベーションは決して時間や場所を超えて一定のものではなく、やる気には強弱や変化、つまり波があるのである。このようなモチベーションの性質をどのように理解したらよいだろうか。

「うちの子は勉強する意欲がまったくない」「やる気が低い部下ばかりで困っている」というように、A われわれは他者をモチベーションの観点から評価しがちである。そのハイゴ(ア)には、やる気や意欲を当人の性格的な特徴、つまりパーソナリティの一部とみなす発想がある。

確かに、いつでもどこでもエネルギッシュに活動している人がいるだろうし、常に無気力にみえる人もいる。あらゆることに興味を持つ人や、どんな場面であっても努力を惜しまない人もいる。われわれがモチベーションを性格的な特徴として理解するのは、そこにその人ならではの一貫性を感じ取るからである。端的にいうならば、それは「その人らしいモチベーション」だといえよう。

ただ、モチベーションを「その人らしいモチベーション」だけで説明するのには無理がある。一人ひとりを細かく観察すればすぐにわかることだが、同一人物であっても常に同じモチベーション・パターンを繰り返すわけではない。たとえば、授業中にやる気をまったく示さなかった生徒が部活動の場面ではまるで別人のように活動的になるというように、個人のモチベーションは時と場合によって変動する。

心理学では心理現象を「特性」と「状態」という2つの水準で説明することがある。たとえば不安は、常に安定して作用する「特性不安」と、その場そのときに体験している「状態不安」とに区別される。両者の区別によって、たとえば、普段あまり不安を感じない人（特性不安が低い人）であっても、近所でフシン(イ)な物音がすると急に不安になる（状態不安が高まる）といった現象の理解が可能になるわけである。

これと同様にモチベーションも「特性」と「状態」に区別できる。「その人らしいモチベーション」は特性レベルに該当する。たとえば、前述のパーソナリティ論アプローチでは、達成欲求の強弱などを比較的安定した B 個人差の変数、つまり特性として扱っていた。

一方で、モチベーションには「波」がある。われわれのモチベーションは刻一刻と変化し、しかもあらわれては消えていくといった不安定な心理現象でもあるのだ。このような流動的な性質は状態レベルに該当する。

モチベーションには以上の2つのレベルに加え、もうひとつの水準がある。たとえば、読書の意欲と一口にいっても、人によって好みのジャンルは異なるだろう。恋愛小説が好きな人がいれば、ミステリーしか読まないという人もいるだろう。小説には一切興味がなく、新書ばかり読みあさっている人もいるかもしれない。このように、領域や内容の違いに応じてあらわれるモチベーションが領域レベルである。

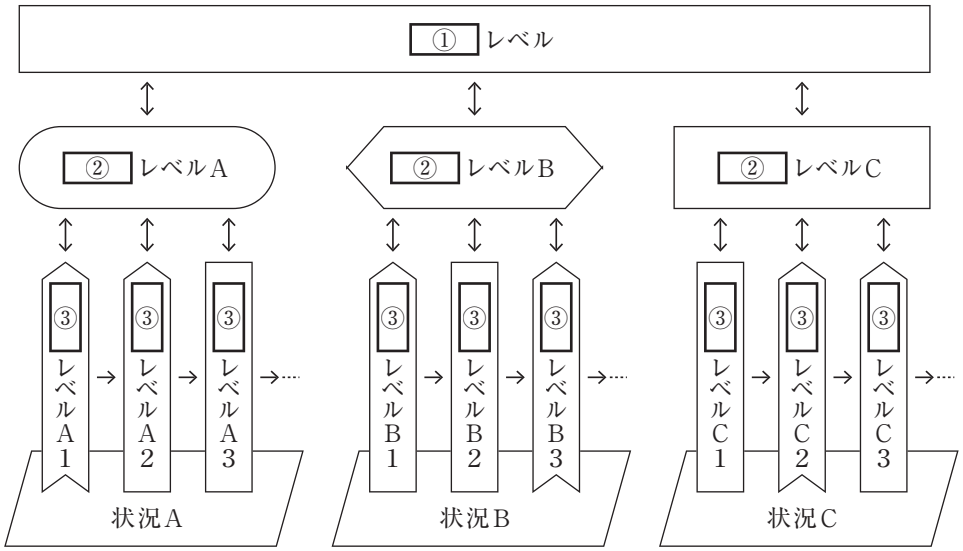
たとえば、一見、勉強全般に意欲がないようにみえる生徒であっても、国語の詩や俳句といった特定の内容にだけは興味を持って学ぼうとするかもしれない。また、英語のゲームで盛り上がっている教室の片隅に、浮かない表情で活動に参加しない少数派がいたりするものである。同一人物であっても活動内容によってモチベーションのあり方は異なるし、同じ活動の内容であってもモチベーションのヨウソウ[ウ]には個人差がみられるわけである。

以上のように考えると、モチベーションがきわめてダイナミックな心理現象であることがわかる。わが子や部下を「やる気がない」というひと言で［X］するわけにはいかないのだ。[C]モチベーションのダイナミズムは、以上の3つのレベルとそれらの相互作用として描くことができる。すなわち、モチベーションには3つの水準が存在し、それらは互いに影響を及ぼしあいながら、特定の時点におけるモチベーション（状態レベル）を規定していると考えられるのである。

これら3つのレベルのうち、「今、ここ（here and now）」における心理現象、つまり、状態レベルこそがモチベーションの最重要ポイントである。それはまさに、特性レベルや領域レベルの影響を受けつつ、特定の「場」において現在進行形でダイナミックに変動する心理的かつ社会的な現象であり、[D]日々のわれわれの体験そのものだからである。それこそがわれわれが知りたい、やる気や意欲の本質なのである。

しかも、状態レベルのモチベーションは中長期的にその人の領域レベルのモチベーションを左右し、ひいては特性レベルのモチベーションを形成していく可能性がある。たとえば、たまたま授業中に体験した英語のゲームが楽しくて、英語を使ったコミュニケーションが好きになるかもしれない。さらに英語のみならず、対人的なコミュニケーション全般に対して積極的な人へと成長していく可能性さえもある。このように、[E]モチベーションの発達を考える上でも、状態レベルのモチベーションは重要な着眼点なのである。

図



（鹿毛雅治『モチベーションの心理学―「やる気」と「意欲」のメカニズム―』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一　傍線部ア～ウと同じ漢字を含むものを、次の各群のⓐ～ⓔのうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 1 、イが 2 、ウが 3 。

ア　ハイゴ

ⓐ 手痛いハイボクを喫する。
ⓑ タイハイ的な生活を送る。
ⓒ 優秀な人材をハイシュツする。
ⓓ ハイスイの陣で挑む。
ⓔ ハイタ的な組織。

イ　フシン

ⓐ 産業のシンコウを図る。
ⓑ オンシンが途絶える。
ⓒ シンビガンを鍛える。
ⓓ 権利をシンパンする。
ⓔ 健康をゾウシンする。

ウ　ヨウソウ

ⓐ ソウゴウを崩す。
ⓑ ソウテイが美しい本。
ⓒ 故郷をソウキさせる味。
ⓓ ソウダイな物語を書く。
ⓔ 会議の内容をソウカツする。

問二　傍線部A「われわれは他者をモチベーションの観点から評価しがちである」とあるが、それはなぜか。この理由として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 4 。

ⓐ ものごとに対するモチベーションこそが、人間性の本質であると考える傾向があるから。
ⓑ 人のモチベーションに一貫性はないという正しい認識を持っている人が少ないから。
ⓒ 他者のモチベーションの中に見出された一貫性を、固有の性格として認識する傾向があるから。
ⓓ 人は、モチベーションの高い人に良い印象を持ち、低い人に悪い印象を持つ傾向があるから。
ⓔ モチベーションは、他者を評価する尺度として最もわかりやすいものであるから。

問三　傍線部B「個人差の変数」とあるが、この説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 5 。

ⓐ　同じ条件においても結果に違いをもたらす要因となる状況の性質のこと。
ⓑ　同じ条件においても結果に違いをもたらす要因となる個人の独自の性質のこと。
ⓒ　条件の変化に応じて変化する個人の流動的な性質のこと。
ⓓ　ある一定の条件において発揮される個人の独自の性質のこと。
ⓔ　安定した個人の性質を大きく変動させる状況の性質のこと。

問四　空欄 X に入る四字熟語として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 6 。

ⓐ　我田引水
ⓑ　換骨奪胎
ⓒ　刻苦勉励
ⓓ　独断専行
ⓔ　一刀両断

問五　傍線部C「モチベーションのダイナミズム」とあるが、これを図のように表したとき、空欄①～③に当てはまる語句の組み合わせとして最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 7 。

	①	②	③
ⓐ	領域	特性	状態
ⓑ	特性	状態	領域
ⓒ	特性	領域	状態
ⓓ	領域	状態	特性
ⓔ	状態	領域	特性

問六　モチベーションの水準について、具体例を示したものとして最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 8 。

ⓐ　普段は仕事に対する意欲が低い人が、毎週金曜日だけ意欲が高くなることは、状態レベルのモチベーションに起因する。
ⓑ　運動に対する意欲が高い人が、持久走に対してのみ意欲が低くなることは、状態レベルのモチベーションに起因する。
ⓒ　兄は料理に対する意欲が高いが、弟は読書に対する意欲が高いという違いは、特性レベルのモチベーションに起因する。
ⓓ　ある講演を聞いたことをきっかけに勉強に対する意欲が高くなることは、領域レベルのモチベーションに起因する。
ⓔ　家では勉強に対する意欲が低い人が、図書館に行くと意欲が高くなることは、領域レベルのモチベーションに起因する。

問七　傍線部D「日々のわれわれの体験そのものだからである」とあるが、この説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 9 。

ⓐ　日常的な体験に影響を与えるのは、特性レベルや領域レベルではなく、状態レベルのモチベーションであるということ。
ⓑ　状態レベルのモチベーションが特性レベルや領域レベルに影響を与えることで、日常的な体験は形づくられるということ。
ⓒ　日常生活の中で経験するあらゆる感情は、状態レベルのモチベーションによって引き起こされているということ。
ⓓ　日常生活の中で見られるモチベーションという現象の本質は、状態レベルのモチベーションであるということ。
ⓔ　人々が性格的な特徴として理解しているモチベーションとは、状態レベルのモチベーションであるということ。

問八　傍線部E「モチベーションの発達を考える上でも、状態レベルのモチベーションは重要な着眼点なのである」とあるが、それはなぜか。この理由として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 10 。

ⓐ　状態レベルのモチベーションは、特性レベルや領域レベルのモチベーションによって形成されるから。
ⓑ　状態レベルのモチベーションは、特性レベルや領域レベルのモチベーションにまで影響を及ぼすことがあるから。
ⓒ　状態レベルのモチベーションを高めることで、直接的に特性レベルのモチベーションが高まるから。
ⓓ　状態レベルのモチベーションを観察することで、個人の人格の核を把握することができるから。
ⓔ　状態レベルのモチベーションは、特性レベルや領域レベルのモチベーションと異なり短期間で変化させることが難しいから。

メ　　モ

試験問題は次に続く。

二

次の文章を読んで、**問一**～**六**に答えなさい。

情報をたくさん仕入れたからといって、役に立つとは限らない。そのことをわかりやすく示してくれるのが、一次産業です。いかにいろんな人から話を聞いて、情報を蓄積しても、産物がとれなければ意味がありません。「農業は保守的だ」などとよく言われますが、無意味に保守的なのではありません。うっかり「最新情報」を仕入れて、やり方を変えて、収穫がなくなれば元も子もないから、そうそう簡単に現場は変えられない。だから保守的にならざるをえないのです。

ネットで情報を仕入れても、目の前の田んぼにそれが通用するかどうかはわからない。隣の田んぼと同じやり方をやったらうまくいくかどうかもわからない。やってみなくては仕方がないのです。だから農家は簡単には動かない。ふつうにやっていれば収穫できる場合、革命的なことをやる必要がありません。また、頭の中で考えた理想論やマニュアルは現場ではオウ(ア)オウにして通用しません。

コメの苗を植えるに際して、マニュアル的にはなるべく田んぼにぎゅうぎゅうに詰めて植えることになっている。単位面積あたりの収穫量を上げるには、そうしようと考えるのが自然です。

ところが有機農法を長いことやっている人に聞くと、「それは違う」と言う。ぎゅうぎゅうではなく、七割程度に抑えたほうがいい、と。周りからは笑われることもあるそうですが、最終的にはそのほうが品質も良くて、収穫量もソン(イ)ショクないと言います。

A この人は経験則で、こういうやり方を導いたのです。

情報を仕入れすぎるとよくない、というのは科学論文を書いたことのある人ならば、よくわかるはずです。論文を書こうとして、関連のものを全部網羅してチェックしていたら際限がありません。しかも読むうちに、だんだん他人のものに引っ張られてしまう。

すると自分のアイデアが枯渇する。私の教わった先生は、その危険性をわかったうえで、B「本を読んじゃいけないよ」と教えてくれました。

先生によれば、「よくない教科書というのは、よくできすぎている教科書、説明が至れり尽くせりの教科書だ」ということでした。よくできた教科書の何が問題なのか。一見、そのほうが役に立ちそうですが、そういう教科書で学ぶと疑問が生じない。それはよくないのです。別の先生は、

「自分のやった仕事は、教科書を読んで、『ここ、わからないなあ』と思ったところを調べることだった」

と話していました。丁寧に読んで、「ここは、つじつまがあっていない」と思ったところを自分で調べると、仕事（この場合は論文）になるということです。

ものすごく利発で気が利いていて、新しい論文の情報等にも詳しい人がいました。業界の最新情報に通じている。しかし、その人は全然自分自身の

論文を書けなかった。

当たり前のことで、解剖の場合でいえば、すべては目の前にある現物の体を見るところからしか始まらない。それを自分がどう見るかであって、極端にいえば、他人がどう見るかは問題ではない。C ある程度、唯我独尊でいいのです。

もちろん、最低限おさえておかなくてはいけない知識というものはあります。しかし、世界中の研究者の成果を全部おさえようとしたら、それだけで時間がなくなる。別に論文を書く必要がない人でも、なにかを調べる時にネットで検索して、出てきた情報を全部見たらたいへんなことになる、というのはすぐにわかることでしょう。つまり、自分に入ってくる情報をどこかで制限しなければ、仕事は進まないのです。【①】

私がネットで調べるのは、どうしても必要な時だけです。ある虫の名前を最初にどの個体につけたのか、といったことです。それがわかったとしても、仕事は終わりません。【②】

ではその虫と、今手元にある虫が同じかどうか。そんなことはネットではわからない。この区別は意外とむずかしいのです。

手元にある二つの虫が同じ種類か、別の種類かということも、またむずかしい問題です。

かなりのところは共通していても、どこかは違う。じゃあ、それを種の違いとしていいかどうか、はっきりした決まりはありません。交尾器の違いで区別する、というのは一つのやり方です。しかし、ここでややこしいのは、交尾器は同じだけれど外見は全然違う、ということもあるのです。住んでいる場所が違って、見た目は違うのに交尾器は同じ。【③】

これを種の違いにしていいかどうかが、はっきり決まっていない。この答えもどこにも書かれていません。【④】

こんなことは虫に興味のない人にとっては、どうでもいい話でしょう。

でも、D これは実は社会を変えるということともつながってきます。なにかを解決したいと考えるとき、同じ問題であっても地域によって解決策が違う、ということは十分あるでしょう。この村ではこういうやり方が向いているが、あっちの村には向いていない。それは土地や人間が違えば、当たり前のことです。【⑤】

だから、「みんなが丸儲け」の答えがある、という考え方は怪しいのです。虫を見ていても、そのことはよくわかります。

（養老孟司『「自分」の壁』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一　傍線部ア、イと同じ漢字を含むものを、次の各群のⓐ～ⓔのうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 11 、イが 12 。

ア　オウオウにして

ⓐ　顔面をオウダされる。
ⓑ　犯罪がオウコウする。
ⓒ　オウイを継承する。
ⓓ　敵襲にオウセンする。
ⓔ　車のオウライが激しい。

イ　ソンショク

ⓐ　褒められてケンソンする。
ⓑ　国家ソンボウの危機。
ⓒ　多大なソンガイを被る。
ⓓ　人のソンゲンを傷つける。
ⓔ　シソン繁栄を願う儀式。

問二　傍線部A「この人は経験則で、こういうやり方を導いたのです」とあるが、この説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 13 。

ⓐ　農家の人が、外部から得た情報をそのまま利用せず、自身の経験に基づいて最善の方法を選んでいるということ。
ⓑ　農家の人が、保守的な考え方を捨てて新しい方法を試したことによって、独自の方法を確立したということ。
ⓒ　農家の人が、多大な情報の中から役に立つと判断したもののみを採用して、品質や収穫量が改善されたということ。
ⓓ　農家の人が、外部からの情報を遮断したことによって、独自のアイデアが浮かぶようになったということ。
ⓔ　農家の人が、周りの声や評判を気にすることなく、自分自身を信じて行動したことで成功を収めたということ。

問三　傍線部B「『本を読んじゃいけないよ』と教えてくれました」とあるが、それはなぜか。この理由として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 14 。

ⓐ　本を読むことに時間を割くことで、研究を進めたつもりになってしまうから。
ⓑ　有用な情報を収集するには、本ではなくて論文を読むことが適切だから。
ⓒ　必要以上の量の情報を収集しても、取捨選択することが難しくなってしまうから。
ⓓ　他人の考えに触れてばかりいると、独自の考えが浮かばなくなってしまうから。
ⓔ　他人の意見を鵜呑みにしていると、偏った考え方しかできなくなってしまうから。

問四　傍線部C「ある程度、唯我独尊でいいのです」とあるが、この説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 15 。

ⓐ　解剖を行う際は、決して他人の意見を聞いてはいけないということ。
ⓑ　実践の場において知識は役に立たないため、自分を信じるほかないということ。
ⓒ　研究をするときは、少しばかり独りよがりな物の見方をしてもよいということ。
ⓓ　研究者として大成するには、多少は身勝手な行動をとるのも仕方ないということ。
ⓔ　研究を成功させるには、共同作業より個人作業を重視するべきだということ。

問五　本文中には次の一文が脱落している。この文が入る箇所として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 16 。

自分の目で判断するしかないのです。

ⓐ【①】
ⓑ【②】
ⓒ【③】
ⓓ【④】
ⓔ【⑤】

問六　傍線部D「これは実は社会を変えるということともつながってきます」とあるが、この説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 17 。

ⓐ　虫を研究するときに、どうしても必要な前提知識があるように、社会を変えようとするときも最低限の情報は必要である。

ⓑ　虫の種を見極めるには、自分で観察して考える力が必要であるように、社会を変えようとするときにも自分で考える必要がある。

ⓒ　虫の分類において種の定義が観察者の判断を含む曖昧なものであるように、土地や人間についても明確な境界は存在しない。

ⓓ　虫の分類が観察者によって異なるように、社会のあり方や問題の解決策も上に立つ者の物の見方によって異なる。

ⓔ　虫の分類をするときにネットが役に立たないように、社会を変えようとするときもネットから得た情報は役に立たない。

メ　　モ

試験問題は次に続く。

三

次の文章を読んで、**問一**〜**六**に答えなさい。

子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激にみちあふれています。残念なことに、わたしたちの多くは大人になるまえに澄みきったドウサツ力(ア)や、美しいもの、畏敬すべきものへの直感力をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。

もしもわたしが、すべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない「センス・オブ・ワンダー＝ X 感性」を授けてほしいとたのむでしょう。

この感性は、やがて大人になるとやってくる倦怠と幻滅、わたしたちが自然という力の源泉から遠ざかること、つまらない人工的なものに夢中になることなどに対する、かわらぬ解毒剤(A)になるのです。

妖精の力にたよらないで、生まれつきそなわっている子どもの「センス・オブ・ワンダー」をいつも新鮮にたもちつづけるためには、わたしたちが住んでいる世界のよろこび、感激、神秘などを子どもといっしょに再発見し、感動を分かち合ってくれる大人が、すくなくともひとり、そばにいる必要があります。

多くの親は、熱心で繊細な子どもの好奇心にふれるたびに、さまざまな生きものたちが住む複雑な自然界について自分がなにも知らないことに気がつき、しばしば、どうしてよいかわからなくなります。そして、

「自分の子どもに自然のことを教えるなんて、どうしたらできるというのでしょう。わたしは、そこにいる鳥の名前すら知らないのに！」

と嘆きの声をあげるのです。

わたしは、子どもにとっても、どのようにして子どもを教育すべきか頭をなやませている親にとっても、「知る」(B)ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。

子どもたちがであう事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまなジョウショ(イ)やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌をタガヤ(ウ)すときです。

美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたびよびさまされると、次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。そのようにして見つけだした知識は、しっかりと身につきます。

消化する能力がまだそなわっていない子どもに、事実をうのみにさせるよりも、むしろ子どもが知りたがるような道を切りひらいてやることのほう

がどんなにたいせつであるかわかりません。

もし、あなた自身は自然への知識をほんのすこししかもっていないと感じていたとしても、親として、たくさんのことを子どもにしてやることができます。

たとえば、子どもといっしょに空を見あげてみましょう。そこには夜明けや黄昏の美しさがあり、流れる雲、夜空にまたたく星があります。

子どもといっしょに風の音をきくこともできます。それが森を吹き渡るごうごうという声であろうと、家のひさしや、アパートの角でヒューヒューという風のコーラスであろうと。そうした音に耳をかたむけているうちに、あなたの心は不思議に解き放たれていくでしょう。

雨の日には外にでて、雨に顔を打たせながら、海から空、そして地上へと姿をかえていくひとしずくの水の長い旅路に思いをめぐらせることもできるでしょう。

あなたが都会でくらしているとしても、公園やゴルフ場などで、あの不思議な鳥の渡りを見て、季節の移ろいを感じることもできるのです。

さらに、台所の窓辺の小さな植木鉢にまかれた一粒の種子さえも、芽をだし成長していく植物の神秘について、子どもといっしょにじっくり考える機会をあたえてくれるでしょう。

子どもといっしょに自然を探検するということは、まわりにあるすべてのものに対するあなた自身の感受性にみがきをかけるということです。それは、しばらくつかっていなかった感覚の回路をひらくこと、つまり、あなたの目、耳、鼻、指先のつかいかたをもう一度学び直すことなのです。

わたしたちの多くは、まわりの世界のほとんどを視覚を通して認識しています。しかし、目にはしていながら、ほんとうには見ていないことも多いのです。見すごしていた美しさに目をひらくひとつの方法は、自分自身に問いかけてみることです。

「もしこれが、いままでに一度も見たことがなかったものだとしたら？　もし、これを二度とふたたび見ることができないとしたら？」と。

このような思いが強烈にわたしの心をとらえたある夏の夜のことをわすれられません。

月のない晴れた夜でした。わたしは友だちとふたりで岬にでかけていきました。そこは湾につきだしていて、まわりはほとんど海にかこまれていたので、まるで小さな島にいるようでした。

はるか遠くの水平線が、宇宙をふちどっています。わたしたちは寝ころんで、何百万という星が暗い夜空にきらめいているのを見あげていました。

夜のしじまを通して、湾の入り口のむこうの岩礁にあるブイの音がきこえてきます。遠くの海岸にいるだれかの話し声が、一声二声、澄んだ空気を渡ってはこばれてきました。

別荘の灯が、ふたつみっつ見えます。そのほかには、人間の生活を思わせるものはなにもなく、ただ友達とわたしと無数の星たちだけでした。

わたしはかつて、その夜ほど美しい星空を見たことがありませんでした。空を横切って流れる白いもやのような天の川、きらきらと輝きながらくっきりと見える星座の形、水平線近くに燃えるようにまたたく惑星……。流れ星がひとつふたつ地球の大気圏に飛びこんで燃えつきました。

わたしはそのとき、もし、このながめが一世紀に一回か、あるいは人間の一生のうちにたった一回しか見られないものだとしたら、この小さな岬は見物人であふれてしまうだろうと考えていました。けれども、実際には、同じような光景は毎年何十回も見ることができます。そして、そこに住む人々は頭上の美しさを気にもとめません。見ようと思えばほとんど毎晩見ることができるために、おそらくは一度も見ることがないのです。

たとえ、たったひとつの星の名前すら知らなくとも、子どもたちといっしょに宇宙のはてしない広さのなかに心を解き放ち、ただよわせるといった体験を共有することはできます。そして、子どもといっしょに宇宙の美しさに酔いながら、いま見ているものがもつ意味に思いをめぐらし、驚嘆することもできるのです。

（レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』（上遠恵子訳）による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア～ウと同じ漢字を含むものを、次の各群のⓐ～ⓔのうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 18 、イが 19 、ウが 20 。

ア ドウサツ

ⓐ 客を出口までユウドウする。
ⓑ 嘘をつくなど言語ドウダンだ。
ⓒ 両者の意見にイドウはない。
ⓓ 産業のクウドウ化が深刻だ。
ⓔ ボランティアをドウインする。

イ ジョウショ

ⓐ ショカツの警察署に相談する。
ⓑ 事件解決のタンショをつかむ。
ⓒ 従業員のショグウが改善される。
ⓓ 読みやすいショタイで入力する。
ⓔ この本はショハンから二十年が経つ。

ウ タガヤす

ⓐ コウエイ施設が老朽化する。
ⓑ コウリョウとした風景。
ⓒ 選挙でのコウサクが発覚した。
ⓓ コウザン開発が進められる。
ⓔ セイコウ雨読の生活を送る。

問二 空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 21 。

ⓐ 神秘さや不思議さに目を見はる
ⓑ 何事にも喜びや希望を見出す
ⓒ 人工的なものを忌避する
ⓓ 貪欲に知を探求する
ⓔ 小さな生き物を愛おしく思う

問三　傍線部A「解毒剤になる」とあるが、この説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 22 。

ⓐ　センス・オブ・ワンダーは、日々の生活に疲れきった大人の心を癒してくれるということ。
ⓑ　センス・オブ・ワンダーは、自然と触れ合う喜びを再発見させてくれるということ。
ⓒ　センス・オブ・ワンダーは、打算に支配されてしまった大人の心を浄化するということ。
ⓓ　センス・オブ・ワンダーは、自然に対する人間の無力さを再認識させてくれるということ。
ⓔ　センス・オブ・ワンダーは、精神のみならず身体も健康にする力を持っているということ。

問四　傍線部B「『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要ではないと固く信じています」とあるが、それはなぜか。この理由として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 23 。

ⓐ　まだ幼い子どもにとって、知識を身につけるというのは難しいことだから。
ⓑ　感受性を育むということは、実質的には知識を身につけることと同義だから。
ⓒ　知識を身につけることは、感受性を育むことを阻害してしまうから。
ⓓ　大人になってしまってからでは、豊かな感受性を育むことはできないから。
ⓔ　豊かな感受性は好奇心を引き出し、知識を身につける土台になるから。

問五　傍線部C「親として、たくさんのことを子どもにしてやることができます」とあるが、本文中の例として**適切でない**ものはどれか。次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 24 。

ⓐ　身近にある自然を子どもといっしょにじっくり観察すること。
ⓑ　身近な自然に関する知識を子どもといっしょに習得すること。
ⓒ　自然界で起きていることを子どもといっしょに全身を使って感じ取ること。
ⓓ　身の回りにある自然の不思議について子どもといっしょに考えること。
ⓔ　未知なる広大な自然に想いをはせるという体験を子どもと共有すること。